

ITで、 山を使いこなせ。

日本の林業が 抱える、 本当の問題。

木を切る人をふやす。機械を導入する。それだけで生産量がふえるほど、林業は簡単ではありません。山の調査や測量などを人の手で行うと、時間やコストがかかるだけでなく、誤差なども出やすくなるため、なかなか効率化が進まずにいるのです。そこで北信州森林組合が取り組むのが「ICT施業システム」の開発でした。

目指すのは、 林業の効率化。

「林業は森林という大きな工場を運営しているようなもの」と語るのは北信州森林組合の堀澤さん。「森林工場」の効率化に向け、みらい基金のサポートでICT施業システムの開発は今日も進んでいます。いつの日かこのシステムをスタンダード化して、林業をもう一度、日本の成長産業へ。これは、林業のみらいを変える大きな挑戦です。

山の現場から販売まで、 システムでつなぐ。

デジタル化した森林情報を元に切り出した木材のデータを、その場でスマホからネット上へ。中間土場と呼ばれるストック場所に移して、遠く離れた事務所からリアルタイムで在庫を把握。生産量の集計や収支計算など生産後の情報管理までシステムでつなぎ、その分の空いた人手を活用して、さらなる生産力の向上を目指します。

NAKANO

千曲川

挑戦

中間土場

北信州森林組合のみなさん

みらい基金

北信州森林組合
中山 稿一組合長

北信州森林組合
堀澤 正彦 課長

「農林水産業みらい基金」は、
農林水のみらいをつくる
全国の活動を応援しています。

